

豊橋市自然史博物館に新たに収蔵された東海地方産 絶滅危惧甲虫の標本について

長谷川道明*

Specimens of some threatened beetles of the Tokai District, newly preserved
in Toyohashi Museum of Natural History

Michiaki Hasegawa*

はじめに

生物多様性保全の研究や対策においては、生物種の過去の生息状況に関する情報が極めて重要であるが、絶滅危惧種となっている生物種の多くでは、そうした情報が不足している。これは、情報のよりどころとなる標本が僅かしか現存していなかったり、所在が不確かであったりして検証できないことによる影響が大きい。

地域の昆虫相に関する調査は、主に在野のアマチュア研究者によって支えられており、その基となった標本類のほとんどは個人が所有している。そのため、研究者の引退や逝去等により、絶滅産地の貴重な標本も含めた自然史資料の散逸、紛失が危ぶまれ、その恒久的な保存と管理は大きな課題である。

豊橋市自然史博物館では、平成 21 年度に春日井市在住の吉田哲朗氏から、平成 27 年度に名古屋市在住の森 功一氏からそれぞれ昆虫コレクションの寄贈を受けた。コレクションの調査と整理を進めたところ、これらの中から絶滅産地の甲虫類標本 8 種 45 点が見出された。

また、平成 28 年になって、故・鋤柄守三氏が 1950 年代に蒲郡市内で採集されたスジゲンゴロウとコガタノゲンゴロウの標本について、御子息の鋤柄道夫氏よ

り寄贈を受けた。スジゲンゴロウは環境省による第 4 次レッドリストで我が国から絶滅、コガタノゲンゴロウは愛知県のレッドリストで絶滅とされているが、いずれの種もこれまで東三河地方から信頼できる分布情報がなかった種である。

本報では、上記の標本について、若干の解説を添えて報告する。

なお、標本データは、個体数（豊橋市自然史博物館登録番号）、採集地、採集年月日、採集者の順に記し、基本的に標本につけられているデータをそのまま転記した。また、採集者の後の略号の「TY」は吉田哲朗氏寄贈の標本を、「KM」は森 功一氏寄贈の標本であることを示す。

また、文中に引用した国および愛知、岐阜、三重各県のレッドリストのランクは下記公表のものである。

環境省：第 4 次レッドリスト（2012 年公表）。

愛知県：第三次レッドリスト（2015 年公表）。

岐阜県：改訂版レッドリスト（2009 年公表）。

三重県：改訂版レッドリスト（2014 年公表）。

記 録

カワラゴミムシ *Omophron aequalis* Morawitz, 1863
(標本データ)

* 豊橋市自然史博物館, Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan. E-mail: hasegawa-michiaki@city.toyohashi.lg.jp

原稿受付 2017 年 1 月 18 日. Manuscript received Jan. 18, 2017.

原稿受理 2017 年 2 月 17 日. Manuscript accepted Feb. 17, 2017.

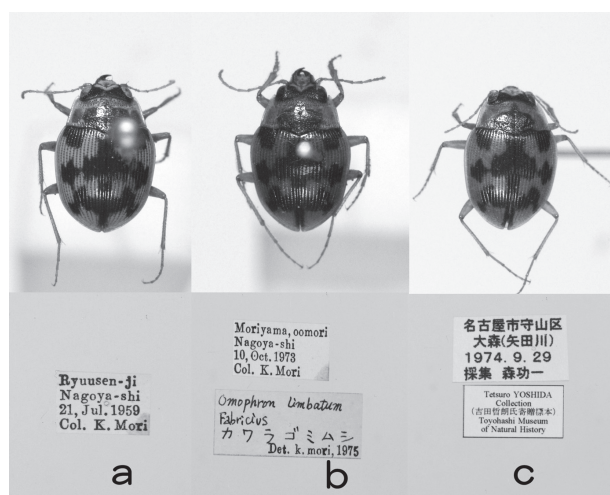
キーワード: 甲虫類, 絶滅危惧種, 愛知県, 三重県.

Key words: Coleoptera, threatened species, Aichi Prefecture, Mie Prefecture.

4 exs. (TMNH-I-28814 ~ 28817), Ryuusen-ji, Nagoya-shi, 21, Jul. 1959, Col. K. Mori (KM); 1 ex. (TMNH-I-28808), Moriyama, Oomori, Nagoya-shi, 23, Sep. 1973, Col. K. Mori (KM); 2 exs. (TMNH-I-28809, 28810), Moriyama, Oomori, Nagoya-shi, 10, Oct. 1973, Col. K. Mori (KM); 1 ex. (TMNH-I-28811), Moriyama, Oomori, Nagoya-shi, 6, Mar. 1973, Col. K. Mori (KM); 2 exs. (TMNH-I-28812, 28813), 名古屋市守山区大森 (矢田川), 1974.9.29, 森 功一採集 (KM).

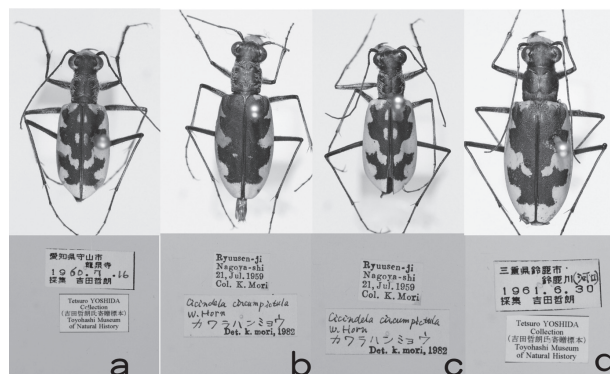
“Ryuusen-ji” は、現在の地名では名古屋市守山区竜泉寺町付近の庄内川河川敷。ラベルでは“Nagoya-shi”となっているが、採集された1959年当時は守山市である。“Moriyama, Oomori”は日本語のラベルが付けられている2個体と同じ名古屋市守山区大森の矢田川河川敷で採集されたものである。

本種は、愛知県では準絶滅危惧にランクされている。



第1図. カワラゴミムシの標本とラベル.

a, 名古屋市守山区庄内川産; b, c, 名古屋市守山区矢田川産.



第2図. カワラハンミョウの標本とラベル.

a-c, 名古屋市守山区庄内川産; d, 三重県鈴鹿川産.

名古屋市では1950年代まで庄内川、矢田川から生息が確認されていたが、現在の河川敷の環境から判断して生存確認は絶望的とされる(愛知県環境調査センター, 2009). 上記標本から矢田川では少なくとも1970年代までは生息していた。

カワラハンミョウ *Chaetodera laetescrpta circumpictula* (W.Horn, 1938)
(標本データ)

7 exs. (TMNH-I-28818 ~ 28824), Ryuusen-ji, Nagoya-shi, 21, Jul. 1959, Col. K. Mori (KM); 4 exs. (TMNH-I-28825 ~ 28828), 愛知県守山市竜泉寺, 1960.7.16, 吉田哲朗採集 (TY); 1 ex. (TMNH-I-28829), 三重県鈴鹿市鈴鹿川 (河口), 1961.6.30, 吉田哲朗採集 (TY).

「守山市竜泉寺」「Ryuusen-ji」は同場所。守山市は、1963年に名古屋市に編入され名古屋市守山区となった。採集場所は竜泉寺町付近の庄内川河川敷で、TMNH-I-28818 ~ 28824の7個体は上記のカワラゴミムシと同一日に採集されたものである。庄内川のカワラハンミョウについては、穂積ほか(1975)に「30年ほど前、竜泉寺裏で採集されて以来まったく記録がない」という記述があるが、上記の標本から少なくとも1960年までは生息していた。

「鈴鹿市鈴鹿川(河口)」のラベルがついたTMNH-I-28829標本は、吉田哲朗氏のご教示によると、正確な採集地は、「鈴鹿川派川河口」で、当時の地名は三重郡楠町(現在は四日市市楠町)。1961年6月26日~27日に三重県北部で集中豪雨による水害があり、採集当日は、派川河口の南にあった小規模な砂浜に洪水漂流物が溜まっており、その中より採集された。漂着物中にはゴミムシ、ゲンゴロウ、ガムシ、ゴミムシダマシ類が多数みられ、カワラハンミョウも鈴鹿川上流から流されてきた個体の可能性があるとのことだった。

カワラハンミョウは、東海三県では、愛知県及び三重県では絶滅危惧IA類、岐阜県では絶滅危惧I類にランクされている。かつては渥美半島伊良湖岬、知多半島内海、庄内川、木曽川、三重県の伊勢湾岸に生息地があったが、現在も生息が確認されているのは、三重県の1地点のみとなっている。

フタモンマルクビゴミムシ *Nebria pulcherrima* Bates, 1873
(標本データ)

6 exs. (TMNH-I-28830 ~ 28835), 三重県北勢町阿下喜,

1960.10.11, 吉田哲朗採集 (TY) ; 3 exs. (TMNH-I-28836 ~ 28838), Mt. Fujiwara, Mie-ken, 1960, Col. T. Yoshida (KM).

吉田哲朗氏のご教示によると、採集地は多志田川が本流の員弁川に合流する辺りの、多志田川右岸で、水辺の礫に多産していた。森コレクションの3個体 (TMNH-I-28836 ~ 28838) は、ラベルが“Mt. Fujiwara”で詳細な採集日が記されていないが、吉田哲朗氏が森氏に譲渡した標本で、吉田コレクションの6個体 (TMNH-I-28830 ~ 28835) と同時に採集されたものである。

三重県からはこれまで本種の記録はなく、これが初めての分布情報となる。東海三県では他に1942年に名古屋市守山区竜泉寺付近の庄内川で採集された記録 (穂積, 1960) が知られるのみである。

キベリマルクビゴミムシ *Nebria livida angulata* Banninger, 1949
(標本データ)

1 ex. (TMNH-I-28839), 名古屋市西区東枇杷島町, 1957.4.29, 吉田哲朗採集 (TY) ; 1 ex. (TMNH-I-28840), 愛知県瀬戸市赤津, 1960.6.5, 吉田哲朗採集 (TY) ; 1 ex. (TMNH-I-28847), Katayama-jinja, Nagoya-shi, 26, May 1959, Col. K. Mori (KM) ; 1 ex. (TMNH-I-28848), Higashi-ku, Nagoya-shi, 19, Apr. 1959, Col. K. Mori (KM) ; 6 exs. (TMNH-I-28841 ~ 28846), 三重県北勢町阿下喜, 1960.10.11, 吉田哲朗採集 (TY).

“Katayama-jinja” は、名古屋市東区芳野にある片山神社である。

三重県北勢町阿下喜の標本は、上記のフタモンマルクビゴミムシと同日に採集されたもので、吉田哲朗氏のご教示によると、フタモンマルクビゴミムシと同じ多志田川での採集品であるが、当時本種はどこにでもいる普通種という感覚であったため、詳しい採集状況についてはよく記憶していないとのことであった。

愛知県では絶滅危惧 IA 類であるが、最近の生息情報はなく、保存されている標本はいずれも1950年代に採集された個体である (愛知県環境調査センター, 2009; 長谷川, 2002)。三重県では1960年以後の確認記録がなく、絶滅にランクされている。上記の標本も含め、1960年以前には濃尾平野各地で採集された標本が残されており、珍しい種ではなかったことが示唆される。

スジゲンゴロウ *Hydaticus satoi* Wewelka, 1975
(標本データ)

1 ex. (TMNH-I-28849), Higashiyama Pa., Nagoya-shi, 27, Aug. 1958, Col. K. Mori (KM) ; 1 ex. (TMNH-I-28854), SHIOTSU, AICHI, 30-VII-1949, 鋤柄道夫氏寄贈。

森 功一氏のご教示によると、“Higashiyama Pa.” は、名古屋市千種区にある東山公園の南側の裏山で、当時は灌木の生えている雑木林であった。TMNH-I-28854 標本のデータ “SHIOTSU” = 「塩津」は現在の蒲郡市竹谷町付近。ラベルには採集者名が書かれていないが、寄贈者の鋤柄道夫氏によれば、採集者は鋤柄守三氏とのことである。

本種は、環境省の第4次レッドリストで我が国における絶滅種に指定された。愛知県からはこれまで名古屋市港区土古町・守山区 (穂積・佐藤, 1957), 名古屋市守山区志段味, 瀬戸市定光寺 (長谷川, 2002), 安城市 (愛知県農業総合試験場, 1982) の記録が知られていたが、東三河地域からの分布情報は知られていなかった。



第3図. 三重県産フタモンマルクビゴミムシの標本とラベル。
a, 吉田コレクション; b, 森コレクション。



第4図. キベリマルクビゴミムシの標本とラベル。
a, 愛知県瀬戸市産; b, c, 名古屋市産; d, 三重県北勢町産。

コガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus orientalis*
Gschwendtner, 1931
(標本データ)

1 ex. (TMNH-I-28855), SHIOTSU, AICHI, 14-VIII-1949,
鋤柄道夫氏寄贈.

愛知県では絶滅, 三重県では絶滅危惧 IA, 岐阜県
では絶滅危惧 I 類にランクされている. 東海地方では
濃尾平野を中心に記録が残されているが, 愛知県で
は名古屋市港区土古町・守山区(穂積・佐藤, 1957),
名古屋市守山区吉根(長谷川, 2002)のいずれも 1960
年以前に採集された記録が残されているのみで, 東三
河地域からの分布情報はなかった.

上記のスジゲンゴロウと同じく, 採集者は鋤柄守三
氏で, 自宅付近の「塩津」で採集されたものである.

オオクワガタ *Dorcus hopei binodulosus* Waterhouse,
1874
(標本データ)

1 ex. (TMNH-I-28850), Moriyama, Oomori, Nagoya-shi,
15, Aug. 1973, Col. K. Mori (KM).

森 功一氏のご教示によると, この標本は名古屋市
守山区の大森団地の灯火に飛来したものである.

東海地方では濃尾平野と周辺の丘陵地から記録があ
るが, マニアの過剰採集とペットとして移入された外
国産種との交雑により絶滅の危機が増大しており, 愛
知県では絶滅危惧 IA 類にランクされている.

豊橋市自然史博物館には, 本標本の採集地に近い
名古屋市守山区竜泉寺で 1976 年に採集された標本
(TMNH-I-2484) も保管されている.

クロマダラタマムシ *Nipponobuprestis querceti*
(Saunders, 1873)
(標本データ)

1 ex. (TMNH-I-28851), Yoshino-cho, Nagoya-shi, 21, May
1957, Col. K. Mori (KM); 1 ex. (TMNH-I-28852), Yoshino-
cho, Nagoya-shi, 15, Jun 1957, Col. K. Mori (KM).

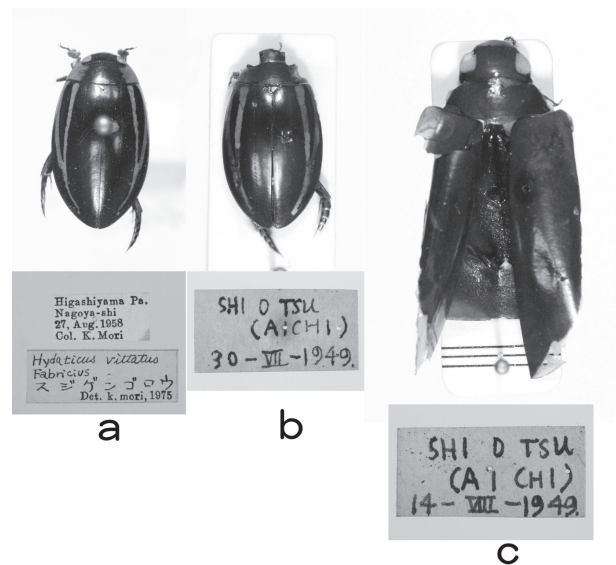
森 功一氏のご教示によると, 採集地は名古屋市東
区芳野町で金城学院中学校庭の北はずれの斜面にある
立ち枯れ木に登って, 幹から出てくるのを待って捕ら
えた記憶があるとのことだった.

本種は平野から丘陵地に分布し, エノキなどの大
木に発生する. 愛知県では絶滅危惧 II 類にランクさ
れ, 公園や河川敷に残存するエノキの大木に依存して
辛うじて個体群を維持している(愛知県環境調査セン
ター, 2009; 穂積, 1965; 蟹江・戸田, 2008; 河路,

2011). 名古屋市内では名古屋城で 1957 年に採集され
た標本が保存されている以外情報がなかった(長谷川,
2002).

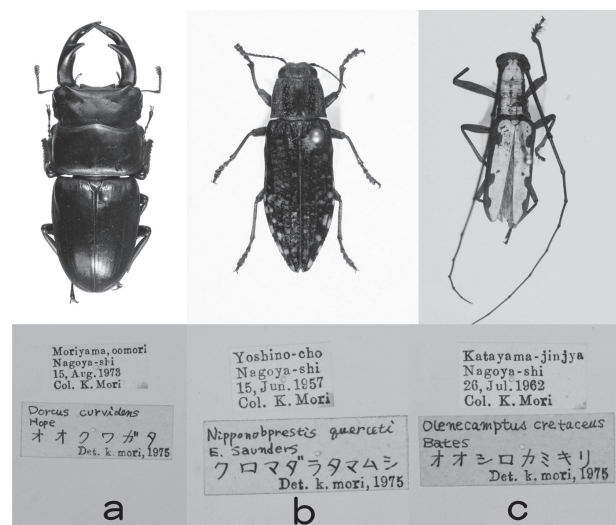
オオシロカミキリ *Olenecamptus cretaceus cretaceus*
Bates, 1873
(標本データ)

1 ex. (TMNH-I-28853), Katayama-jinja, Nagoya-shi, 26,
Jul. 1962, Col. K. Mori (KM).



第5図. 絶滅産地のゲンゴロウ類の標本とラベル.

a, 名古屋市産スジゲンゴロウ; b, 塩津産スジゲンゴロウ; c, 塩津産コガタノゲンゴロウ.



第6図. 名古屋市産甲虫3種の標本とラベル.

a, オオクワガタ; b, クロマダラタマムシ; c, オオシロカミキリ.

ラベルの採集者は“K. Mori”となっているが、実際の採集者は森 功一氏の御令弟、茂雄氏とのことである。

ケヤキやムクノキなどの大木から発生する種で、尾張地方からは名古屋市東区東新町（成瀬，1957），名古屋市熱田神宮（深田，1971）の記録が知られる。

謝 辞

貴重な標本を豊橋市自然史博物館に寄贈していただいた吉田哲朗氏，森 功一氏，鋤柄道夫氏には，本稿の執筆にあたっても有益な助言や援助をいただいた。厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 愛知県環境調査センター（編），2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2009，－動物編－，愛知県，649p.
- 愛知県農業総合試験場（編），1982. 作物研究所防疫研究室資料 No. 17 予察灯飛来昆虫記録 自昭和 23 年～至昭和 54 年，愛知県植物防疫協会，名古屋，282p.
- 深田政之，1971. 名古屋市内で採集したオオシロカミキリ. 月刊むし，(7): 36.
- 長谷川道明，2002. 豊橋市自然史博物館所蔵森部一雄コレクションに含まれる重要な愛知県産甲虫類. 豊橋市自然史博物館研報，(12): 49–53.
- 穂積俊文，1960. 東海甲虫誌 (9). 佳香蝶，11(8): 1–7.
- 穂積俊文，1965. 船越俊平氏の標本箱より. *Napi News*，(55): 530.
- 穂積俊文・松井一郎・佐藤正孝，1975. 庄内川の昆虫. 建設省庄内川工事事務所，名古屋，41p. + 12pls.
- 穂積俊文・佐藤正孝，1957. 東海甲虫誌 (3). 佳香蝶，9(31): 1–10.
- 蟹江 昇・戸田尚希，2008. 愛知県のタマムシ. 佳香蝶，60(234): 207–230.
- 河路掛吾，2011. 愛知県におけるクロマダタマムシの記録. 佳香蝶，63(246): 40.
- 成瀬善一郎，1957. オオシロカミキリを東区で採集. *Napi News*，(22): 8.